

製造業の業況が大幅に改善！先行きにも回復の兆し。

— 2015年7月～9月期 中小企業景況調査報告書概要 —

日銀が10月1日に発表した9月の企業短期経済観測調査（短観）によると、企業の景況感を示す業況判断指数（D・I）は、大企業・製造業で前回6月調査（プラス15）から3ポイント悪化しプラス12となっている。悪化は3四半期ぶりとなる。中国などの新興国の景気減速に伴い輸出や生産が伸び悩み、景況感が悪化した。大企業・非製造業のD・Iはプラス25と前回（プラス23）から2ポイント改善した。4四半期連続で改善し、1991年11月以来の高水準となった。訪日外国人の増加を受けて宿泊・飲食や小売りなどが上昇した。中小企業・製造業では、前回6月調査と横ばいの±0であるが、非製造業は6月調査（プラス4）から1ポイント悪化してプラス3となっており、悪化は3四半期ぶりとなる。

3か月後の先行きの見通し（本年12月予測）は、大企業・製造業がプラス10と今期より2ポイント悪化、大企業・非製造業はプラス19と6ポイントの悪化と予測。中小企業においては、製造業が2ポイント悪化しマイナス2、非製造業は2ポイント悪化しプラス1となっており、全体的に中国など新興国の景気減速や株式相場下落が、先行き懸念につながっていると思われる。

内閣府が9月25日に発表した9月の月例経済報告においては、国内景気の基調判断を8月の「景気は、このところ改善テンポにばらつきも見られるが、緩やかな回復基調が続いている。」から「景気は、このところ一部に鈍い動きも見られるが、緩やかな回復基調が続いている。」と表現を変更した。実質的には基調判断を引き下げており、11か月ぶりのこととなる。個別項目のうち「企業の業況判断」を下方

修正。「個人消費」、「輸出」などは据え置いたが、消費は家電や新車販売などの持ち直しが弱く、輸出も中国経済の減速で低調な状況が続いている。

商工会地域の景況調査においては、今期（2015年7月～9月）の業況に関するD・I値は、マイナス幅が小さい順に、製造業マイナス16.7、サービス業マイナス25.9、建設業マイナス27.3、小売業がマイナス39.0となっている。製造業のマイナス幅が最も小さいのは、2012年4月～6月以来のことである。前期との比較では、製造業がマイナス36.7から20.0ポイントと大幅に改善しマイナス16.7になり、小売業も6.0ポイント改善しマイナス39.0となっている。反対に、サービス業は12.4ポイントと大きく悪化しマイナス25.9、建設業は4.5ポイント悪化しマイナス27.3となっている。

来期（2015年10月～12月期）の業況予測については、今期と比べてサービス業だけが5.0ポイント悪化するとしているが、製造業は6.7ポイント、建設業は8.2ポイント改善する見込みで、小売業においては16.5ポイントと大幅に改善すると予測している。

今期の商工会地域の景況感は、日銀短観と比べるとD・I値の水準は違うが、傾向的には日銀短観や月例経済報告よりは良くなっている部分も見受けられる。特に製造業と小売業は、今期に引き続き来期も堅調に推移する見込みである。建設業も来期は回復する見込みであり、この流れで商工会地域の景気が回復していくことを期待する。

（中小企業診断士 橋本大輔）

業界天気動向図

項目	売上				採算（経常利益）				資金繰り			
	10H 5/26 12年 月	1H 5/27 3年 月	4 5 6 月	7 5 9 月	10H 5/26 12年 月	1H 5/27 3年 月	4 5 6 月	7 5 9 月	10H 5/26 12年 月	1H 5/27 3年 月	4 5 6 月	7 5 9 月
製造業												
建設業												
小売業												
サービス業												

各項目については次により表示した。

区分	増加	やや増加	横ばい	やや減少	減少	大幅に減少
	好転	やや好転		やや悪化	悪化	非常に悪化
D/I値(前年同期比)	20.1～	5.1～20.0	5.0～△5.0	△5.1～△20.0	△20.1～△35.0	△35.1～
表示	快晴	晴れ	曇り	小雨	雨	豪雨

今期直面している経営上の問題点需要の停滞

（数値の左は前期構成比、右は当期割合を%で記す）

製造業	1位		2位		3位		4位	
1位にあげる問題点	需要の停滞		生産設備の不足・老朽化		製品ニーズの変化、製品（加工）単価の低下、上昇難		原材料価格の上昇、熟練技術者の確保難等	
前期	20.7	25.0	13.8	17.9	—	10.7	—	7.1
今期	9.5		14.3		—		9.5	
建設業	1位				2位			
1位にあげる問題点	請負単価の低下、上昇難、従業員の確保難				材料価格の上昇、取引条件の悪化、事業資金の借入難、熟練技術者の確保難、官公需要の停滞、民間需要の停滞			
前期	9.5				—			
今期	—				9.5			
小売業	1位				2位			
1位にあげる問題点	大型店・中型店の進出による競争の激化、買力の他地域への流出、需要の停滞				店舗の狭隘・老朽化、販売価格の低下、上昇難、仕入単価の上昇			
前期	—				19.5			
今期	—				7.3			
サービス業	1位		2位				3位	
1位にあげる問題点	利用者ニーズの変化		材料等仕入単価の増加、従業員の確保難、需要の停滞				店舗の狭隘・老朽化	
前期	6.2		20.8				—	
今期	—		—				14.6 16.7	